

第12回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優 秀 賞

実践報告部門

**大学における金融リテラシー教育
アクティブラーニングと学習ポートフォリオ**

石川県・金沢大学 専任講師 松浦 義昭

知るぽると
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2015

1. はじめに

平成24年に国内では「消費者教育の推進に関する法律」が制定され、同年にG20ロスカボス・サミットで「金融教育のための国家戦略に関するハイレベル原則」が承認された。

平成26年には、金融経済教育推進会議が「金融リテラシー・マップ」^{注)}を公表、項目別・年齢層別に「最低限身に付けるべき金融リテラシー」が明示化された。同マップは4分野（Ⅰ. 家計管理、Ⅱ. 生活設計、Ⅲ. 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択、Ⅳ. 外部の知見の適切な活用）からなり、さらに細かく8分類で構成される。

同マップでは、大学生は「社会人として自立するための能力を確立する時期」として位置づけられ高校生までとは一線を画して、若年社会人から高齢者までの階層と共通する内容が多いのが特徴である。

本稿は、この金融リテラシー・マップを活用して、金融広報アドバイザーの協力を得て実施された大学での金融経済教育の内容を報告し、今後の課題と展望について述べるものである。

2. 授業実施の概要

本稿の対象となる教育実践事例は、金沢大学の人間社会学域経済学類で後期に開講された専門科目「ビジネス・ファインナンス（2単位）」である。後期（10月から2月）までの期間に16回の授業を実施した。講義は、金融広報中央委員会・石川県金融広報委員会の協力を得て中立・公正な金融広報アドバイザーが知識・経験を基にした前半6回を、大学教員が10回を担当した。受講者は、主に経済学類所属の2回生から4回生までの167名である（資料1）。

（1）授業の主題

大学生の金融リテラシー向上を目的に、次の三点を具体的な目標とした。授業で学生は、金融リテラシー・マップを基本に、i) “大学生が最低限身に付けるべき金融リテラシー”の基礎を学び、ii) ディスカッションやグループ学習など学生参加型の授業を通して学んだ知識を、iii) 実際の生活場面で活用できるようになることを目標に授業を行った。

（2）授業の特徴

授業の特徴は、i) 金融広報アドバイザーと大学教員が連携した授業、ii) アクティブラーニングによる学生の主体的な学習、iii) 学習ポートフォリオの三点である。

i) 金融広報アドバイザーと大学教員との連携では、学期が始まる前に授業に関する事前打ち合わせを実施した。その際、金融リテラシー・マップの内容を踏まえた授業展開で大学生がお金に関する考え方を身に付け、それを実践へと繋いでいくことが重要であるとの認識を共有することができた。

社会に出る直前の段階にある大学生は、大学生活はもとより社会で生活するために必要な金融リテラシーについて学ぶ意欲は高い。この大学生への具体的な授業の進め方についても金融広報アドバイザーと大学教員で議論し、一方的な講義だけでなく、アクティブラーニングも取入れた授業を実施するように授業方法の統一を図った。

ii) アクティブラーニングによる学生の主体的な学習を促す内容は以下の通りである。

実際の大学での金融経済教育の授業は、前半に金融リテラシー・マップの内容を踏まえた解説とした。授業後半は、実際の生活場面で利用する状況を想定したケース教材を開発して、ケースに関するグループ討論や発表を取り入れた内容で構成した。

金融リテラシー・マップの4分野8分類の内容を踏まえたケース教材には、資産運用・消費者被害の防止・保険・住宅ローン・就職・ライフプラン・大学生の生活設計といったテーマがある。各テーマを担当する金融広報アドバイザーと大学教員は担当授業のケース教材を作成したうえで、さらに、担当する授業やケースに対応するルーブリックも作成し、学生に提示することにした。

この毎回の授業内容やケースに対応して書かれたルーブリックには、その週の授業内容やケース教材の意図と評価の観点、到達水準がレベル別に示されている。

このルーブリックを金融広報アドバイザーや大学教員が授業の解説資料や評価規準として利用するとともに、学生も自分がどの水準まで到達しているのか、授業やケース討論の振り返りを行う際の自己評価に役立てている。

1回90分の授業時間の時間配分は、前半の60分を解説にあて、後半の20分をグループ討論に、最後の10分を発表や振り返りにあてた。また、授業の前半の解説と後半のグループ討論、振り返りといった学習活動は、時間帯によってそ

の重点の置き方を変えた。

まず、授業前半では基礎知識（金融リテラシーのキー概念、用語等）についての理解に重点を置いている。後半のケース討論では、学習した内容の利用・適用に重点を、最後の振り返りでは、学習した内容と金融リテラシー・マップの内容との関連づけに重点を置いている。

これによって、90分間の授業にめりはりを持たせ、後半のケース討論もやりっぱなしの活動ではなく、自分にとって学習した内容を利用・適用する際にどこが課題なのかを振り返りで学生に意識させるようにしている。

iii) 学習ポートフォリオの活用は、金融経済教育を学ぶ大学生の学習を記録・蓄積し、振り返ることができる仕組みである。具体的には、学内限定のeラーニングシステムを利用して学習ポートフォリオの機能を提供しており、学生は授業を通してどのように進歩してきたかを一覧できる。

この学内のeラーニングシステムでは、金融リテラシー・マップの4分野8分類対応の新たに作成した教材“金融リテラシー到達度 自己診断チェックシート”（資料2）を利用できるようになっている。

学生は、金融リテラシー・マップに沿った分野ごとの内容について、自分自身の理解度や達成度を自己評価し、さらに、その分野で「1年後までに身に付けたい目標」、「目標達成のために実践したい内容」を所定の欄に記入する。

学期を通して分野ごとの自己診断記録を蓄積することで、金融リテラシーのどこが課題なのか学生自身が振り返るとともに、今後どうしたらよいかを具体的な行動目標に落とし込んで考えることを学生に促すようにしている。また、教員はその学生の自己診断の状況を把握したうえで指導ができる仕組みになっている。

また、金融リテラシー・マップに対応した演習用教材として、書き込み式ワークシート（資料3）を作成して学生の予習・復習用に活用している。

さらに、金融リテラシー・マップに対応した金融リテラシー基礎テストを開発した。学生が4分野である「家計管理」、「生活設計」、「金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択」、「外部の知見の適切な活用」をどの程度習得しているかを得点化できるようにした（資料4）。学生は、この基礎テストの結果から分野別の得点を確認することができる。また、教員側も学生の理解度を把握し、これを活用しながら学習効果の検証と授業改善、学生の指導に生かせる仕組みになっている。

（3）授業実践の効果

授業の受講者を対象に実施したアンケート調査の結果は下記の通りである。実施のタイミングは授業の終了時点、回収率は63.7%であった。まず、受講者自身の授業への取り組み状況について質問した項目「あなたは、授業に対して意欲的に取り組みましたか。」については、「1. 十分に取り組んだ」が24.7%、「2. かなり取り組んだ」が36.1%である。約60%が意欲的に授業に取り組んだことがわかる。

また、「授業の内容は興味や関心が持てるものでしたか。」については、「1. そう思う」が52.6%、「2. どちらかといえばそう思う」が42.3%、「3. どちらとも言えない」が4.1%であった。授業の内容が興味や関心が持てるものであったとの回答が半数を超えている。

自由解答欄の記述では、「消費者問題はとても身近なものなので今後役に立つと思った。」、「日本の年金制度について学び、有益な時間でした。私もこれからライフプランを設計して計画的な消費をし、豊かな人生を送りたいと思いました。」、「住宅購入する時には預貯金の額や金利、税金などが複雑に絡んでいることがわかりました。もっと勉強して自分が購入する時に役立てたいです。」といった回答が得られた。

また、金融リテラシー・マップに基づくケース課題のグループ討論では、学生は書き込み式ワークシートでの予習とともに事前にインターネットや新聞でテーマに関連する情報を自主的に調べて討論に臨むなど、熱心な授業参加がなされた。また、基礎知識（金融リテラシーのキー概念、用語等）についての理解を問う設問とともにケース討論で学習した内容の利用・適用に重点を置いた複雑な課題であっても、グループのメンバーと協力しながら答を模索する態度がみられた。

以上のアンケート調査の結果およびグループ討論の観察から、金融広報アドバイザーと大学教員が連携して実施した金融リテラシーの授業に対して多くの学生が肯定的なとらえ方をしており、興味と関心を持って意欲的に学習に取り組んだことがわかる。

4. おわりに

本論文は、金融リテラシー・マップを基本に、金融広報アドバイザーと大学教員が連携した、大学における金融経済教

育を報告するものである。

授業前半の説明とともにディスカッションやグループ学習など学生参加型の授業を通して学んだ知識を、実際の生活場面で活用できるようになることを目標に授業を行った。

これまでの授業実践や学習ポートフォリオの記録、アンケート調査の結果を踏まえて、今後の授業の改善の方向性について述べたい。

授業では、学生個人々人にとって金融リテラシー 4分野 8分類のどこが課題なのか、今後どのように金融リテラシーを身に付けたいのかを、「金融リテラシー到達度 自己診断チェックシート」及び「大学卒業後の10年間」(資料5)、「生活設計シート」(資料6)などを利用して具体的な活動目標に落とし込んで考えることを学生に促している。

今後は、その学生が金融経済教育の授業を受けることによって、金融リテラシー 4分野 8分類の何ができるようになったのか成長過程を明確に把握できるよう実践研究を進める。

また、本年度に開発した金融リテラシー基礎テスト(金融リテラシー・マップに対応)のスコアとルーブリックに基づく評価の相関関係についても検討する。

さらに、金融広報アドバイザーと大学教員の緊密な連携も必要である。両者が長期的・連続的な視点から大学での金融経済教育の内容や改善点を議論する双方向の金融経済教育を発展させたい。

(注) 金融経済教育推進会議(事務局:金融広報中央委員会)「金融リテラシー・マップ」、2014年6月、2015年6月改訂

<参考文献>

- ・金融広報中央委員会「大学生のための人生とお金の知恵」、2015年3月
- ・西村隆男「学校における金融経済教育の進捗状況」多重債務問題及び消費者向け金融等に関する懇談会(第4回)配布資料、平成26年11月11日
URL <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/saimu/kondankai/dai04/siryou9.pdf>
- ・溝上慎一著『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂、2014年

資料1 授業シラバス

授業科目名 [英文名] / Course Title	ビジネス・ファイナンス B [Business Finance B]		
担当教員名 [ローマ字表記] / Instructor	松浦 義昭 [MATSUURA, Yoshiaki]		
科目ナンバー / Numbering Code	科目ナンバリングとは Course Numbering		
時間割番号 / Course Number	33319	科目区分 / Category	選択指定
講義形態 / Lecture For	講義	対象学生 / Assigned Year	2～4年
適正人数 / Class Size		開講学期 / Semester	後期 2nd semester
曜日・時限 / Day・Period	月曜・1限 Monday・1st Period	単位数 / Credit	2
キーワード / Keywords	◆ キーワード ◆ パーソナル・ファイナンス 金融リテラシー・マップ 1. Keywords ◆ Personal finance Financial literacy maps		

授業の主題 / Topic

◆ 授業の主題 ◆

授業で学生は、(1)“大学生が最低限身に付けるべき金融リテラシー”の基礎知識を学び、(2)授業中のディスカッションを通して学んだ知識を定着させ、(3)実際の生活場面で活用できるようになることを目的としています。

◆ Main theme of course ◆

The targets of this course are for students to (1) learn the fundamental knowledge for "the minimum financial literacy needed to be gained by a university student," (2) solidify their learned knowledge via discussions, etc., in class, (3) gain the ability to actively utilize the knowledge and principles learned in the class in their actual daily lives.

授業の目標 / Objective

◆ 授業の目標 ◆

この授業では、金融リテラシー・マップの主要なテーマについて解説します。

具体的には、1. 家計管理 2. 生活設計 3. 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択
4. 外部の知見の適切な活用、について解説します。

◆ Goal of course ◆

This course provides explanatory lectures regarding the key themes of financial literacy maps. Specifically, we explain
1. household budget management, 2. life (pre- and post-retirement) planning, 3. financial knowledge and an understanding of financial and economic affairs, plus the selection and use of financial instruments (products),
4. the effective use of external-source opinions, findings, etc.

学生の学習目標 / Prerequisites

◆ 学生の学習目標 ◆

この授業を最後まで受講した学生は、以下の8つの能力が身に付くように学習目標を設定しています。

1. 消費者トラブルに巻き込まれないために必要な契約の基礎知識を身に付けることができる。

2. 月々の収支管理の必要性を理解し、収支計画を立てることができる。
3. 人生の三大資金等を念頭に置きながら、大学卒業後の生活設計のイメージを持つことができる。
4. 奨学金や住宅ローンの仕組みを理解し、その返済計画を立てることができる。
5. 金融商品の3つの特性(流動性・安全性・収益性)を理解する。また、金融商品のリスク・リターン・分散投資の考え方を理解し、これらの数値を計算することができる。
6. 自分自身が備えるべきリスクの種類や内容を理解し、それに応じた対応(リスク削減、保険加入等)を行うことができる。
7. 金融商品を利用するに当たり、相談やアドバイスを求められる適切な機関等を把握し、必要な場合にはそれらの機関等を利用することができる。
8. 家計の現状を把握し、そこから問題点や課題を発見し、その対策を検討して改善策を立案し、ライフプランの提案書にまとめることができる。

◆ Learning outcomes of students ◆

Learning outcomes for students who complete this course are to gain the eight capabilities listed below.

1. A grasp of fundamental knowledge of contracts needed to avoid becoming involved in consumer-related troubles.
2. An understanding of the importance of monthly account (income and expenditure) management, and the ability to create budgets (income and expenditure plans).
3. While bearing in mind the three major expenditures of life (education, housing, old age), etc., the ability to form a distinct image of one's life after graduation from university.
4. An understanding of the structures and workings of student loans, housing loans, etc., and the ability to establish repayment plans for these.
5. An understanding of the three characteristics (liquidity, safety, profitability) of financial instruments. Also, an understanding of the concepts of risk, return, and diversified investment for financial instruments (products), and the ability to calculate the numeric values for such.
6. An understanding of the kinds and contents of risk that individual students face, and the ability to take actions (risk reduction, become insured, etc.) in response to these risks.
7. In the potential use of financial instruments, the ability to consult with and seek advice from appropriate institutions, etc., and, when necessary, the ability to utilize such institutions, etc.
8. The abilities to understand the current state of the household budget, to discover problem points and related issues thereof, to investigate policies and establish improvement policies therefor, and to refine life- plan proposals.

授業の概要 / Outline

◆ 授業の日程 ◆

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1週 | 履修案内・・・金融リテラシー・マップとは |
| 第2週 | 契約について |
| 第3週 | 家計管理について |
| 第4週 | 生活設計について |
| 第5週 | 生命保険について |
| 第6週 | 資産運用について |
| 第7週 | 住宅ローンについて |
| 第8週 | 奨学金の貸与と返済計画 |
| 第9週 | 職業別の所得とキャリア計画 |
| 第10週 | 交通事故と自動車保険の契約 |
| 第11週 | 結婚・出産・子育ての必要資金 |
| 第12週 | 情報活用：外部知見の適切な活用 |
| 第13週 | 経済：金融市場・証券市場・為替市場 |
| 第14週 | 経済：インフレとデフレ・金利変動の要因 |
| 第15週 | (総理解) ライフプラン提案書の書き方 ① 単身世帯 |
| 第16週 | (総理解) ライフプラン提案書の書き方 ② 二人以上の世帯 |

◆ Course schedule ◆

Week 1: Course Information: The "financial literacy map"

Week 2: Contracts

Week 3: Household budget management

Week 4: Life planning

Week 5: Life insurance

Week 6: Asset management

Week 7: Housing loan

Week 8: Student loans and repayment schedules

Week 9: Salaries by occupation and career planning

Week 10: Motor vehicle accidents and automobile insurance contracts

Week 11: Funding required for weddings, childbirths, and raising children

Week 12: Information usage: Appropriate uses of external opinions and advice

Week 13: Economics: Financial markets, securities markets, foreign exchange markets

Week 14: Economics: Cause of inflation, deflation, and interest-rate fluctuations

Week 15: (Overall understanding) Writing a Life Plan proposal (1) Single-person households

Week 16: (Overall understanding) Writing a Life Plan proposal (2) Households of two or more persons

※ Subject to change depending on student need and class progress. ※必要に応じて変更される場合があります。

評価の割合 / Grading Rate

授業には、3分の2以上の出席を必要とする。/Attendance to at least two-thirds of classes is required.

レポート /Report 50 %

出席状況 /Attendance rate 25 %

演習の発表点 /Presentation point at seminar 25 %

◆ 期末レポート ◆

◇この授業の単位修得を希望する学生は、期末レポートを提出する必要があります。

◇学期を通して第1回から第15回までの各回で学んだ知識を単に情報として理解・記憶にとどめておくだけではなく、総合的に活用して期末レポートを執筆することになります。

◇学生は、期末レポートのテーマとして、(1)単身世帯のモデル家計、(2)二人以上の世帯のモデル家計のどちらかを選択することになります。このモデル家計には、金融リテラシー・マップの4分野の要素が組み込まれています。

◇学生は、上記の(1)か(2)のモデル家計について、学期を通して学んだ知識を活用して、家計の現状を把握してライフイベント表及びキャッシュフロー表を作成し、そのモデル家計の問題点や諸課題を発見しさまざまな制約条件のもとで改善策を立案します。

◇最終的には、資金計画を踏まえたライフプラン提案書をまとめて期末レポートとして提出します。

◆ Term paper ◆

◇ Students who desire to obtain credit for this class must submit a term paper.

◇ Students are to go beyond merely using the knowledge learned each time from Class 1 through Class 15 of this course as information to be understood and memorized; rather, they are to actively use this knowledge in a comprehensive way in the writing of their term papers.

◇ As theme for their term papers, students are to select either (1) a model household budget for a single person household, or (2) a model household budget for a household of two or more persons. Said model household budgets have incorporated elements of the four areas of the literacy map.

◇ For the above-stated model household budgets (1) or (2), students shall utilize the knowledge they have learned throughout the school term to ascertain the current state of their selected model and to create a life events chart plus a cash flow statement, to discover problem points and related issues of their model household budget, and, on the basis of the different restrictive conditions, to devise improvement policies for such.

◇ Finally, students shall summarize their findings in the form of a Life Plan Proposal while referring to their budget plan, and submit such in the form of a term paper.

テキスト・教材・参考書等 / Teaching Materials

◆ 教育教材 ◆

講義資料および宿題は、授業サイトから入手することができます。

◆ Teaching Materials ◆

Lecture notes and homework assignments are available through the course website.

その他履修上の注意事項や学習上の助言 / Others

◆ その他 ◆

◇ ケース教材を使ったグループディスカッションがあります。

◇ パソコンを使った演習があります。指定日にはパソコンを携帯して出席してください。

◇ この90分の授業は、(1)前半が講義による知識の習得、(2)後半がケース教材のグループディスカッションと発表です。

◇ 授業では、学習内容と到達水準が記載されたルーブリックが配布されます。このルーブリックは、金融リテラシー・マップの項目をもとに構成されています。ルーブリックを利用して自分自身の金融リテラシーの水準を確認することができます。

◆ Others ◆

◇ Please note that there will be group discussions using case materials.

◇ There will be training on the use of a personal computer for calculations. On designated days, please be sure to bring your computer to class.

◇ The 90-minute classes consist of (1) the first half, lecture for the study and acquisition of knowledge, and (2) the latter half, group discussions and "presentation" speeches on case materials.

◇ In each class, a Rubric stating the study contents and learning attainment levels for that class will be distributed.

◇ Each Rubric is created on the basis of the items in the financial literacy map. Students can use the Rubric to confirm their own financial literacy levels.

オフィスアワー等 (学生からの質問への対応方法等) / Consultation Time

◆ オフィスアワー ◆

オフィスアワー 月曜日 12:10 ~ 12:50

電子メール ymatsu@staff.kanazawa-u.ac.jp

◆ Office hour ◆

Office hour: Mon. 12:10 ~ 12:50

e-mail: ymatsu@staff.kanazawa-u.ac.jp

資料2 金融リテラシー到達度 自己診断チェックシート

ユニット	分類1. 適切な収支管理	到達度		
		未到達 ⇒	おおむね到達 ⇒	十分到達
到達目標	①収支管理の必要性を理解し、赤字を出さない（黒字を確保する）意思をもっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	②必要に応じアルバイト収入を増やすなど、収支の改善に努めることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	③資源の有限性・希少性を理解したうえで、機会費用、効率性、公正性を考慮して支出の適否を判断できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	④現在の自分の生活や教育などのために支払われている費用を知り、家族の一員として家計全体を意識した支出行為等ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑤自分の能力向上や目標達成のために必要な支出を、予算の範囲内で、計画的に行うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑥各種のクレジット機能を利用する場合、将来の支出である（借金である）ことをよく理解し、将来の決済時点で収支がバランスする範囲内で利用する（クレジットカードでは、一括払など以外は金利がかかることを認識する）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑦高い金利で借りることを避けることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑧収入（仕送り、奨学金、アルバイト収入等）、支出（学費、生活費等）を把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑨収入・支出、残高などを適宜記録している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑩大学進学にかかる費用は、自己の能力向上のための投資であることを理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑪奨学金を借りている場合、それが借金であることを理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
※各項目の文言の言葉の意味や内容は理解できましたか？下記に該当する番号に○を付けてください。		未到達は1点、おおむね到達は2点、十分到達は3点		
①理解できた ②ふつう ③理解できなかった（具体的に番号を書いてください。)		合計得点 _____ 点		

学習の内容	学習の記録（学習日時・学習内容）	学習総時間

金融リテラシー（私の目標）

<input type="checkbox"/> 《分類1. 適切な収支管理》について、1年後までに私が身につけておきたい金融リテラシーの目標を具体的に書き込んでおきましょう。 （1年後とは、 年 月 日です。）
<input type="checkbox"/> 上記の目標に到達するために日頃から実践したいことを具体的に書き込んでおきましょう。
<input type="checkbox"/> 目標を到達したときのイメージを文字や絵で自由に表現してみましょう。

（出典）本シートの到達目標は、金融経済教育推進会議「金融リテラシー・マップ」に基づいています。

資料3 書き込み式ワークシート

分類1. 家計管理	収支管理の必要性を理解し、必要に応じアルバイト等で収支改善をしつつ、自分の能力向上のための支出を計画的に行える	点
実施日:	月 日 ()	学年 番号 氏名
分類①-1 ○収支管理の必要性を理解し、赤字を出さない(黒字を確保する)意思をもっている		
収支管理の必要性を理解し、赤字を出さない(黒字を確保する)ことは家計管理の基本です。自分自身のお金の使い方について見直すところがあるとすれば、どこでしょうか？具体的に考えてみましょう。		
分類①-2 ○必要に応じアルバイト収入を増やすなど、収支の改善に努めることができる		
毎月の支出はできるだけ節約して抑えているものの収支が赤字になる月もあります。そうした場合、あなたならどうするか考えてみましょう。		
分類①-3 ○資源の有限性・希少性を理解したうえで、機会費用、効率性、公正性を考慮して支出の適否を判断できる		
「資源の有限性・希少性」とは、どういう意味でしょうか？あなたの身近な例にたとえて説明してみましょう。		
あなたが大学に進学したことに伴う「機会費用」とは何でしょうか？また、その金額はいくらくらいでしょうか？		
「資源の有限性・希少性を理解したうえで、機会費用、効率性、公正性を考慮して支出の適否を判断する」ことのご具体例を考えてみましょう。		
分類①-4 ○現在の自分の生活や教育などのために支払われている費用を知り、家族の一員として家計全体を意識した支出行為等ができる		
あなたが大学入学から現在まで大学に支払った費用(入学金・授業料等)の総額はどれくらいでしょうか？また、今後卒業までに支払う費用はどれくらいでしょうか？また、そのうち家族が負担している割合は何%でしょうか？※自宅外生は、仕送りの金額も計算してみましょう。		
1		

分類①-5 ○自分の能力向上や目標達成のために必要な支出を、予算の範囲内で、計画的に行うことができる

あなたが向上させたい自分の能力や、達成したい目標は何ですか？そのためにお金が必要とすれば、どのくらいの金額が必要ですか？

あなたが能力向上や目標達成のために使える予算はいくらですか？必要金額が予算をオーバーしたら、あなたはどうしますか？

分類①-6 ○各種のクレジット機能を利用する場合、将来の支出である(借金である)ことをよく理解し、将来の決済時点で収支がバランスする範囲内で利用する(クレジットカードでは、一括払など以外は金利がかかることを認識する)

あなたが店のレジで、カードのクレジット機能を利用すると、その時は代金を後払いにすることができますが、“将来支払うべき支出(借金)”をふやしたことになります。将来の決済時点で収支がバランスするために、クレジットカードを使う際にどこに気をつけたらよいか考えてみましょう。

分類①-7 ○高い金利で借りることを避けることができる

どの金融機関からお金を借りるかを意思決定する場合、“金利”は重要な条件です。インターネットでいくつかの金融機関の金利を調べて比較しましょう。また、あなたがお金を借りる場合に金利が何%までなら利用しようと思うか考えてみましょう。

分類①-8 ○収入(仕送り、奨学金、アルバイト収入等)、支出(学費、生活費等)を把握している

収入(仕送り、奨学金、アルバイト収入等)、支出(学費、生活費等)を“把握する”ための具体的な行動をあげてみましょう。また、そのなかで自分で実践しているものはどれでしょうか。

分類①-9 ○収入・支出、残高などを適宜記録している

収入(仕送り、奨学金、アルバイト収入等)、支出(学費、生活費等)や残高を“記録する”ための具体的な行動をあげてみましょう。また、そのなかで自分で実践しているものはどれでしょうか。

分類①-10 ○大学進学にかかる費用は、自己の能力向上のための投資であることを理解している

大学進学にかかる費用は、どうして必要か？何に使われているのか？考えてみましょう。また、あなたはその費用をはらって大学でどんなことをするのか？を考えてみましょう。

分類①-11 ○奨学金を借りている場合、それが借金であることを理解している

奨学金には、給付型(返済不要)と貸与型(返済が必要な借金)の二種類があります。

「日本学生支援機構(JASSO)の奨学金」は、給付型でしょうか、貸与型でしょうか？

(参考資料:日本学生支援機構) <http://www.jasso.go.jp/shogakukin/seido/index.html>

3

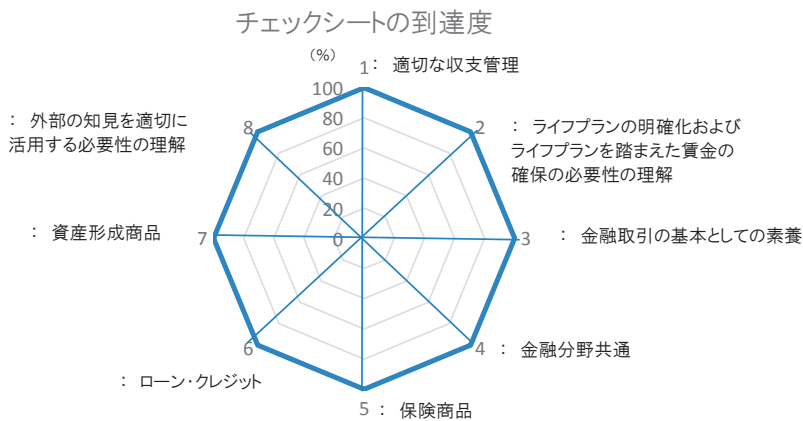
(出典)本ワークの分類・内容は、金融経済教育推進会議「金融リテラシー・マップ」に基づいています。

資料4 金融リテラシー到達度：自己診断結果のレーダーチャート表

大学生

社会人として自立するための
能力を確立する時期

セルフチェックシートの自己診断結果から到達度を計算し、下記のレーダーチャートに書き入れてみましょう。



金融リテラシー・マップ項目		実施日	問題数	到達度 (自己得点)	自己到達度 (到達度/総点)
分野1.	家計管理				
分類1.	適切な収支管理		11		
分野2.	生活設計				
分類2.	ライフプランの明確化およびライフプランを踏まえた資金の確保の必要性の理解		13		
分野3.	金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択				
分類3.	金融取引の基本としての素養		20		
分類4.	金融分野共通		32		
分類5.	保険商品		12		
分類6.	ローン・クレジット		12		
分類7.	資産形成商品		11		
分野4.	外部の知見の適切な活用				
分類8.	外部の知見を適切に活用する必要性の理解		9		
4分野8分類全体			120		

※未到達は1点、おおむね到達は2点、十分到達は3点として得点を計算すること。
 ※3点×問題数として分類それぞれの総点を計算し、自分の到達度を算出すること。

(出典)金融経済教育推進会議「金融リテラシー・マップ」を基に作成しています。

<p>分野1. 家計管理</p>	<p>適切な収支管理</p>	<p>収支管理の必要性を理解し、必要に応じアルバイト等で収支改善をしつつ、自分の能力向上のための支出を計画的に行える</p>
<p>分野2. 生活設計</p>	<p>ライフプランの明確化およびライフプランを踏まえた資金の確保の必要性の理解</p>	<p>卒業後の職業との両立を前提に夢や希望をライフプランとして具体的に描き、その実現に向けて勉強、訓練等に励んでいる 人生の三大資金等を念頭に置きながら、現実的な生活の収支イメージを持つ</p>
<p>分野3. 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択</p>	<p>金融取引の基本としての素養</p>	<p>収集した情報を比較検討し、適切な消費行動をすることができる 金融商品を含む様々な販売・勧誘行為に適用される法令や制度を理解し、慎重な契約締結など、適切な対応を行うことができる</p>
	<p>金融分野共通</p>	<p>金融商品の3つの特性(流動性・安全性・収益性)とリスク管理の方法、および長期的な視点から貯蓄・運用することの大切さを理解する お金の価値と時間との関係について理解する(複利、割引現在価値など) 景気の動向、金利の動き、インフレ・デフレ、為替の動きが、金融商品の価格、実質価値、金利(利回り)等に及ぼす影響について理解している</p>
	<p>保険商品</p>	<p>自分自身が備えるべきリスクの種類や内容を理解し、それに応じた対応(リスク削減、保険加入等)を行うことができる 自動車事故を起こした場合、自賠責保険では賅えないことがあることを理解している</p>
	<p>ローン・クレジット</p>	<p>奨学金を借りている場合、返済を延滞した場合の影響等を理解するとともに、自力で返済する意思をもち、返済計画を立てることができる ローンやクレジットは資金を費消してしまいやすいことに留意する クレジットカードの分割払いやリボルビング払いには手数料(金利)負担が生じる点に留意する ローンやクレジットの返済を適切に履行しない場合には、信用情報機関に記録が残る、他の金融機関等からも借入等が難しくなることを理解する</p>
	<p>資産形成商品</p>	<p>自らの生活設計の中で、どのように資産形成をしていくかを考えている 様々な金融商品のリスクとリターンを理解し、自己責任の下で貯蓄・運用することができる 分散投資によりリスク軽減が図れることを理解している 長期運用には「時間分散」の効果があることを理解している</p>
<p>分野4. 外部の知見の適切な活用</p>	<p>外部の知見を適切に活用する必要性の理解</p>	<p>金融商品を利用する際に相談等ができる適切な機関等を把握する必要があることを認識している 金融商品を利用するに当たり、外部の知見を適切に活用する必要があることを理解している 金融商品の利用の是非を自ら判断するうえで必要となる情報の内容や、相談しアドバイスを求められる適切で中立的な機関・専門家等を把握し、的確に行動できる</p>

資料5 大学卒業後の10年間（金融リテラシー・マップ対応）

記入例【実習シート】 金融リテラシー・マップ対応 大学卒業後10年間のキャッシュフローとライフイベント

経過年数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西 暦		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
家族の年齢	俊（夫）	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	佳奈（妻）						25	26	27	28	29
	くるみ（子）								0	1	2
ライフイベント	ライフイベント	就職					結婚		第1子誕生		
	ライフイベントの費用（一時的な支出に記入）		車購入 (総額230万円)				結婚費用 (支払い分:100万円)		出産関連費用 (50万円)		
収入（手取り）	世帯主の収入	312	318	325	331	338	344	351	358	366	373
	配偶者の収入						286	289	100	100	100
	その他収入								60	18	18
	収入合計	312	318	325	331	338	630	640	518	484	491
支出	生活費	180	182	184	185	187	220	220	240	240	240
	住居費	78	78	78	78	78	96	96	96	96	96
	保険料	10	10	10	10	10	18	20	20	26	26
	教育費										
	その他支出										
	奨学金返還	10	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	車ローン返済		30	30	30	30	30	30			
	一時的支出		50				100		50		
支出合計	278	370	322	323	325	484	386	426	382	382	
年間収支	34	-52	3	8	12	146	254	92	102	109	
貯蓄残高	84	32	35	43	55	202	456	549	650	759	

大学卒業後の10年間：【若年社会人】生活面・経済面で自立する時期 および【一般社会人】社会人として自立し、本格的な責任を担う時期

ライフイベントと金融リテラシー・マップ対応

<p>奨学金返還</p> <p>↓</p> <p>分野3. 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択</p> <p>ローン・クレジット</p>	<p>車ローン返済</p> <p>↓</p> <p>分野3. 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択</p> <p>ローン・クレジット</p>	<p>結婚</p> <p>↓</p> <p>分野3. 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択</p> <p>保険商品</p>	<p>第1子誕生</p> <p>↓</p> <p>分野3. 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択</p> <p>保険商品</p>
---	--	---	--

→ 分野1. 家計管理
適切な収支管理

(出典)金融経済教育推進会議「金融リテラシー・マップ」を基に作成しています。

資料 5 生活設計シート

【実習シート】 分野2 生活設計（自分の夢や希望を、卒業後の職業との両立を前提にライフプランとして具体的に描き、その実現に向け勉強、訓練に励んでいる）

- ①文字や絵で、将来どのような仕事に就いてみたいかを書いてみましょう。また、その仕事に就くために必要な経験や資格などを周りの四角の枠に書いてみましょう。
- ②大学時代の間にこの夢を実現するために何を必要があるのかを考えて具体的に記入してみましょう。

現在 20 歳(目標まで 2 年)

大学生の間に行うべきこと

- 営業職の仕事内容を調べる
- インターネットを利用して働ける会社を探す
- 営業職を目指している友人と情報交換を行う
- サークルの卒業生の方で営業職として働いている人に話を聞かせていただく
- 基本的なビジネススキルについて勉強する
- 営業職に関する本を読む
-
-
-

